

●各委員会行政調査報告

各委員会が実施した先進地への行政調査について報告いたします。

観光建設公営企業委員会

調査日程 令和6年10月22日～24日

調査先及び調査内容

〈鹿児島県鹿児島市〉

公益財団法人 鹿児島観光コンベンション協会 「観光地域づくり法人（登録DMO）について」

観光地域のマーケティング、マネジメント、国内外のターゲット設定等具体的な戦略体系を基にKPIを設定し、市と役割分担・連携を図りながら取り組んでいる。本市が設立したDMO「熱海観光局」においても総合的な観光プラットフォーム機能を果たしていくうえで今後の観光戦略の参考としたい。

天文館商店街振興組合連合会 「南九州一の繁華街として誇る天文館商店街の取組について」

商店街が一体となり、地域の活性化や商店街の発展を目指し地元のイベント開催、商店街の魅力を発信するためのプロモーション活動、地域住民や観光客を対象としたキャンペーンなど様々な取組を行っている。商店街間の連携強化や取組を参考に、更に熱海市商店街の魅力を発信し地域の活性化、集客に尽力していくことが必要と感じた。

鹿児島市 「インバウンド観光推進プロジェクト関連事業について」
「ナイトタイムエコノミー推進事業について」

観光未来戦略に基づき三位一体となって、観光振興、経済波及効果流入人口の拡大に努めており、宿泊観光客を増やすことを念頭にナイトタイムエコノミー推進事業を推進している。本市においても、宿泊観光客を増やすことが最大の効果と考えており、花火大会以外のナイトタイムエコノミー事業について検討の余地がある。今後の観光戦略推進の参考としたい。



鹿児島市にて

総務福祉教育委員会

調査日程 令和6年10月7日～9日

調査先及び調査内容

〈長野県佐久市〉 「人口増加策について」

佐久市は、北陸新幹線の佐久平駅が平成9年に開業して以来、佐久平駅前を中心に再開発が進み、生活インフラの整備が急速に進んだ都市であることが見て取れた。また都会と自然が共存する特殊な環境に加え、保健・医療や教育体制も大変充実しており、こうした住環境の魅力に移住者が惹きつけられている状況が窺われた。なお佐久市の人口増加策はリモートワークの浸透と相まって、首都圏へのアクセスの良さを活かした魅力的な施策・補助制度を次々と打ち出している。本市においても、佐久市と同様、高速交通網の発達により首都圏から近く、自然環境が豊かであるからこそ、佐久市の取組を参考に、政策全体の中でどう活用できるか真剣に考えていく必要がある。特に首都圏リモートワーカー向けの移住促進施策は検討の余地が大いにあると思う。今後も引き続き検討していく。

〈石川県金沢市〉 「金沢型学校教育モデルについて」
「小中一貫英語教育について」

金沢型学校教育モデルは目指すべき金沢の子ども像を明確に示した上で、教育現場での指導方法にまで落とし込まれ、愛郷心や地域への想いを涵養し理解を深める土台となっている。それはトップダウンの理念型や押し付け型ではなく、実際に子どもたちと接する先生たちの意見や考えが十分に反映されているからこそ、決して現実ばなれした空理空論ではなく、現実の具体的なものとして運用され、金沢市内の全ての小中学校で当然のように浸透している。本市においても、金沢市のこのような独自の取組や“姿勢”を参考に、教育現場の声を重視・対話しながら、教育行政の今後進むべき針路を定めていくことが必要であると感じた。



金沢市にて